

中学硬式 県内も盛ん

高校野球人気が背景

クラブチームなどでプレーする中学硬式野球が全国的に活況だ。福井県内でも軟式の人口は減少傾向で、硬式を選ぶ割合が増えている。選手たちが見据えるのはその先の高校野球。「硬式に早くから慣れて、高校で活躍したい」という思いが強いようだ。

(谷口春馬)



真剣な表情で練習に打ち込む福井中学ボーイズの選手たち。11日、福井市の福井フェニックススタジアムサブグラウンド

450人在籍 「早く慣れて活躍したい」

県内の中学硬式野球人口は約450人。そのうち最も人数が多いのはボーイズ。2009年に県支部が発足し、毎年300人以上の選手が在籍する。寺島政夫支部長は学童(小学生)の野球離れが進む中、安定して選手を確保していると話す。

一方の軟式野球部は減少の一途をたどる。県中体連によると17年度の部員は1439人。08年度の2364人と比べ約90人も少なくなった。ある顧問は「入学前から硬式のチームに入っている生徒が多くなった。あの手この手で集めているが、正直厳しい状況が続いている」と打ち明ける。

背景には、人気の高い高校野球の存在がある。

福井の中学硬式野球 現在はボーイズ11、リトルシニア3、ヤング1の計15チームあり、約450人が所属する。福井中学ボーイズ以外はすべてクラブチーム。運営主体が違つたため、基本的に連つりリーグ同士で試合はしないが、昨年からは争う。県外には小学生の硬式チームもあるが県内にはなく、中学から軟式か硬式かを選択することになる。

今年度の県大会で優勝した福井中学ボーイズは55人が所属する大所帯。兵龍星主将は「小学4年のときから中学では硬式をやる」と決めていた。レベルが高い中で頑張りたいという思いが強かった」と進学理由を話す。

兵主将をはじめ「本気で野球がやりたい子の集まり」と、木津竜馬監督はチームの選手たちを評する。だからこそ「目いっぱい野球をやらせた」と平日は約3時間練習し、土日の大半は遠征や大会に赴く。「将来のための体づくりの期間だ」と思っている。今活躍できなくても、高校で芽が出てくれば」と思いを語

「最近甲子園で福井県の選手たちが活躍し『自分も』という思いがあるはず」と寺島支部長。軟式と硬式ではボールの扱いが違つたため「慣れた状態で高校に入り、即戦力として活躍したい選手が多い」と同支部長。という。

今年度の県大会で優勝した福井中学ボーイズは55人が所属する大所帯。兵龍星主将は「小学4年のときから中学では硬式をやる」と決めていた。レベルが高い中で頑張りたいという思いが強かった」と進学理由を話す。

兵主将をはじめ「本気で野球がやりたい子の集まり」と、木津竜馬監督はチームの選手たちを評する。だからこそ「目いっぱい野球をやらせた」と平日は約3時間練習し、土日の大半は遠征や大会に赴く。「将来のための体づくりの期間だ」と思っている。今活躍できなくても、高校で芽が出てくれば」と思いを語

県内高校では近年、部長は「一番は福井の野球が盛り上がる。多くで中学硬式出身の手助けをこれからもし者がプレーする。寺島支たい」と話した。